

都市計画・デザイン教育小委員会（主査：小林正美）

1. 委員会の目的

- 都市計画教育とアーバンデザイン教育の連携に関するデータ収集（国内・海外）。
- 連携カリキュラム、実践的カリキュラム、シャレットワークショップの実施（大会時）。
- 前年度のシャレットワークショップ実施地域のフォローアップ教育。

2. 委員会の組織、WGなど

1) 委員：13名

2) シャレットワークショップWG

- 委員会目的のシャレットワークショップ（短期集中滞在型ワークショップ）の準備・企画・運営・コーディネート
- シャレットワークショップ後のフォローアップ体制の検討

3. 活動内容

1) 学生と地域との連携によるシャレットワークショップ — 黒石の「こみせ」をまちとつなぐデザインを考える —

■参加者数: 学生34名 教員10名 ■開催日: 2009年8月19-23日



シャレットWS風景



建築学会大会公開講評会

- ・全国の建築学生の公募
- ・地元団体との調整
- ・現地視察・ヒアリング調査
- ・地元・公開成果発表会の開催
- ・建築学会大会・講評会の開催

2) 学生と地域との連携によるシャレットワークショップ

— 『松の湯』の再生を考える —

■参加者数: 学生9名 教員3名 ■開催日: 2010年1月23-24日



市民ワークショップ



市民公開シンポジウム

- ・1) シャレットWS参加学生の招致
- ・地元団体との調整
- ・市民と学生の協働によるWS開催
- ・市民公開シンポジウムの開催

4. 活動の成果

- ・8月の青森県黒石市におけるシャレットワークショップ開催以前：
事前調整(資料収集・ヒアリング等)、内容検討(テーマ・教育効果等)
- ・開催後：シャレットワークショップの成果を実際のまちづくりデザインに反映する
フォローアップ体制の検討
- ・現実的地域課題に則した実践教育プログラムとしてシャレットワークショップの
開催を重ねることによる知見の蓄積が成果
- ・2009年12月に「津軽こみせ」というコミュニティスペースを黒石市が買取
⇒「松の湯」と合わせて、街づくりの拠点にするように動いた

5. 今後の展開

- ・都市計画・デザインの資格制度に関する海外の状況・事例の収集
- ・シャレットワークショップの実施(大会時)
- ・前年度のシャレットワークショップ実施地域のフォローアップ教育
- ・研究協議会実施
- ・都市計画・デザインの資格制度に関する国内の様々な立場の関係者からの
ヒアリング・公開討論など
- ・活動成果の出版企画

課題：1. 地域に分かれた委員構成なので、予算上、委員会の頻繁な開催が難しい。
2. 未だにシャレットワークショップへの教員参加は各々個人の研究費負担に
依存している状況である。学会全体としての予算化の検討が期待される。

2009年度 住環境マネジメント小委員会活動記録

2009.4

小委員会・WG 立ち上げ

5

小委員会・WG (担い手連携/計画科学)
主査打ち合わせ
活動計画/公募メンバー選定

7

小委員会活動①
研究フィールド/
情報発信の議論

WG活動①
研究対象・活動計画
検討/メンバー人選

8

小委員会・WG合同活動①
郊外大規模団地再生・まちなか住環境整備
見学会

10

中間報告(大会)

12

小委員会活動②
計画・方法論の枠組
み、住環境の評価指
標・基準・価値議論

WG活動②
事例・既往研究整
理、活動イメージ
の共有

2010.3

大都市圏の住宅市街地の問共有
今後の課題整理、次年度の実施項目検討



花壇大手町地区見学会等
延べ参加者数:42人



小委員会HP+環境マネジメント・
データベースの構築の連動

■テーマ：今後のまちづくりは、誰がどのように連携しながら担っていくのか？

・実際のまちづくり現場で、どのような人々がどのように活動しているのか。

- ①資料収集(委員会での事例報告)
- ②現場視察とヒアリング(3月末に予定)

>>市街地履歴と、都市との関係からフィールドを位置づけ、住環境マネジメントを考える



2009年度 計画科学WGの活動

■テーマ:住環境ストックはどのように計画、事業、運営していくのか？
その方法論を考える。

- ①地域として評価すべき住環境の対象とその要素の抽出および評価方法の確立
- ②住環境ストックの計画、再生、事業、運営の方法論の構築

1 ターゲットとする 市街地像の議論

2 市街地像とそれに応じた計 画科学としてのアプローチ に関する議論

2010年度活動

大会OS

「住環境マネジメントの
担い手とそれを支える
社会の仕組み」

- ✓担い手WGと連携した
データベース作成
- ✓関連研究データベース
の作成

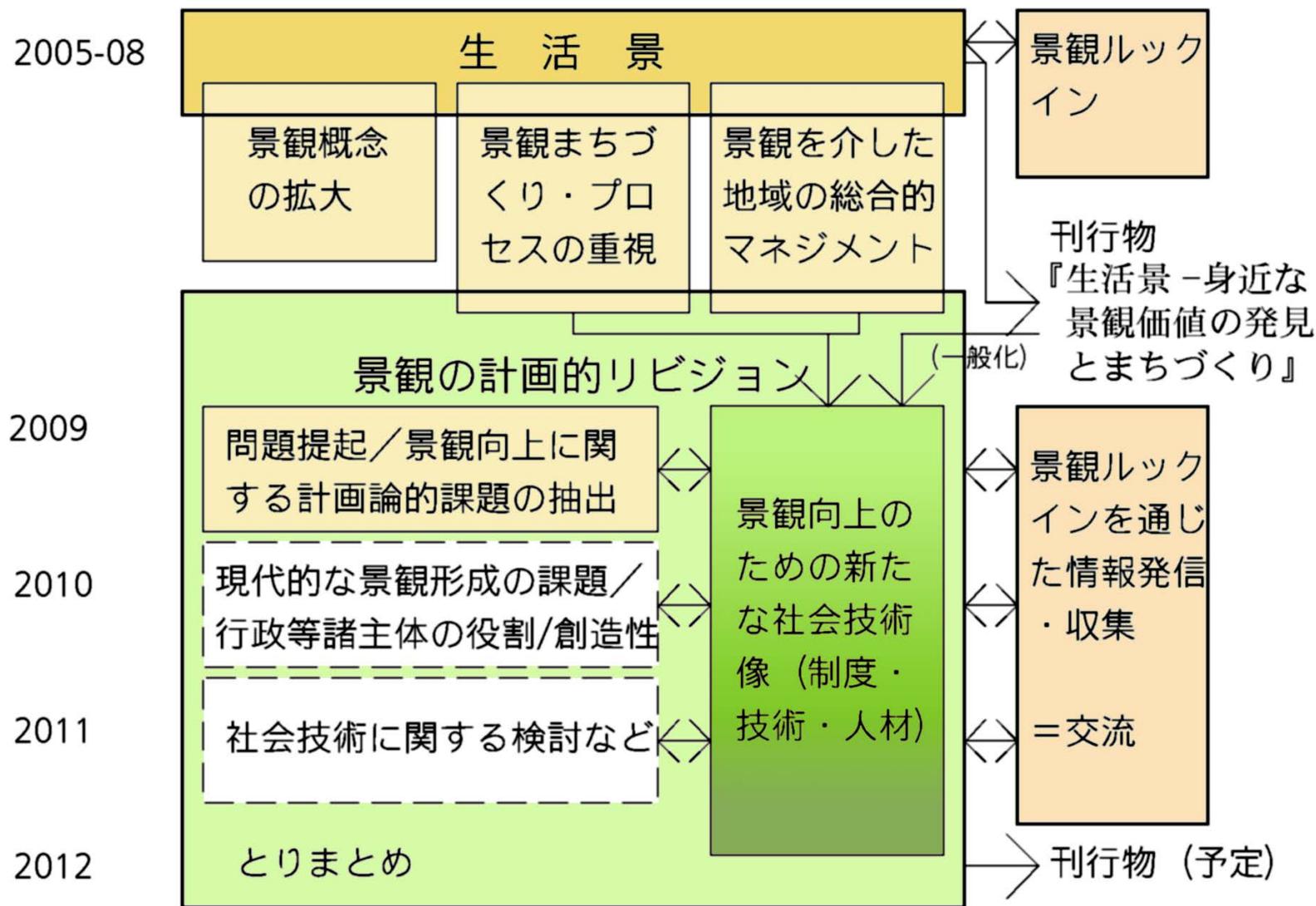
- ✓フリンジのスプロール
市街地
- ✓都心の密集市街地



- ・新たな住環境
評価指標？
- ・事業支援の
ための財源？
- ・担い手として
の組織形態？
- ・公的セクター
の役割？

景観小委員会2009年度活動報告

テーマ：景観の計画的リビジョン



景観ルックイン(第19回)

「蔵まち江刺の景観まちづくり」



江刺地区

25日

シンポジウム:参加人数 56名



研究懇談会：

「景観の計画的リビジョンーこれからの地域・都市づくりを見据えて景観を改めて考える」



都市防災マネジメント小委員会：活動目的と計画

- 設置目的：
 - － 少子高齢，人口減，気候変動等，いろいろな意味で時代の節目にあることを受け，これまでの時代の都市防災を総括し，都市防災の再定義と都市リスクの新たなマネジメント手法について議論を深める。
 - － 国内外の災害復興事例の蓄積とその総合化による知見の整理
- 各年度活動計画：
 - － 2009年度：議論の前提条件の整理と都市防災課題の見取り図の作成
 - － 2010年度：都市防災課題の見取り図の作成／国内外の災害復興評価
 - － 2011年度：都市リスクのマネジメント手法の枠組みに関する議論
 - － 2012年度：総合的な都市リスクのマネジメント手法に関する議論
- メンバー構成：
 - － 小委員会の歴史を汲んだ都市計画系＋構造系の布陣
 - 都市計画系：加藤孝明(東京大)，大西一嘉(神戸大)他
 - 構造系：岡田成幸(名工大)
 - － 若手中心の布陣
 - 30代：6名／15名

都市防災マネジメント小委員会：活動計画

都市復興・防災小委員会

2009

【活動1】

【活動2】

2008年度大会PD
「良い復興とは」

復興マネジメントWG

(当初, 都市リスクマネジメントWG(名称変更))

・仮題「良い復興とは」
原稿執筆

執筆後, 刊行委員会に計画書を提出

2011年度中刊行を目標

災害委員会

【活動3】

連携

支援

「震災に備える」
タスクフォース
(主査: 中林)
2009~

都市防災マネジメント
小委員会

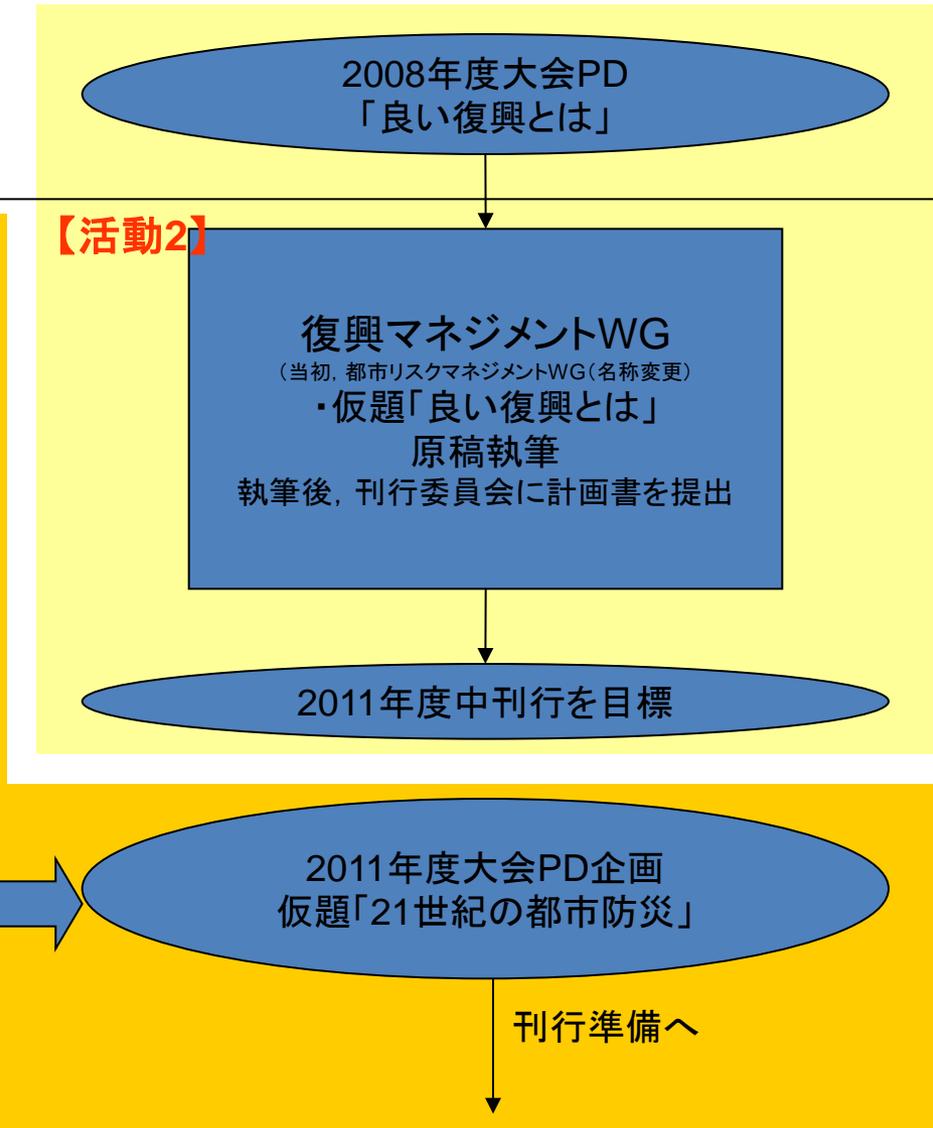
【活動4】

被災調査
復興調査

2011年度大会PD企画
仮題「21世紀の都市防災」

刊行準備へ

2012



都市防災マネジメント小委員会：2009年度活動

- 2009年度活動

- 2009年7月～8月：
 - 幹事レベルで活動計画案の検討と策定
- 2010年1月8日：小委員会開催
 - 問題意識の共有と活動計画の精緻化
- 2010年3月：小委員会開催. 研究会の開催
 - 「21世紀の都市防災」の議論のフレームの検討ワークショップ
 - WG: 仮称「良い復興とは」の目次素案, スケジュール案の検討

※災害委員会の災害調査(インドネシア)に参加

- 牧紀男(京都大): 2009年12月

- 被害状況及び復旧状況についての現地調査を実施。
- 中層建築物及び無補強の組積造住宅に建物被害が集中、建物撤去はほぼ終了。被災建物の煉瓦の再利用、耐震補強を兼ねた住宅再建が一部で見られた。



- 市古太郎(首都大東京): 2010年2～3月

- 住まい再建に関し、西スマトラ州政府等の関係機関、被害が集中地区でのインタビュー及び現地調査を実施。
- 住宅再建として、2006年のジョグジャカルタ地震で実施されたPokmasによる住宅再建支援のスキームを把握。



5 地域まちづくり小委員会 (主査:瀬戸口 剛)

① 委員会の目標

・旧地方都市小委員会を改称。地方都市の再生に関して、人口減少社会に相応する都市のコンパクト化、および地域コミュニティによる都市マネジメントの方策を、学会のみならず行政、市民を交えて検討する。

・2009年度の主な活動

1)シンポジウム「夕張再生支援のための専門家の役割」

2)大会PD「都市コンパクト化による地域まちづくり」

② 委員会の組織 WGなど

主査:瀬戸口剛(北海道大) 幹事:出口敦(九州大) 鳩心治(山口大)
委員15名(公募委員3名)岩田司, 内田晃, 内田奈芳美, 神吉紀世子, 北原啓司, 今野亨, 清水肇, 高木淳二, 野嶋慎二, 樋口秀, 松村博文, 遊佐敏彦,

WG:地方都市の都市形成WG(土地利用小委員会と連携) 主査:樋口秀

③

活動内容 1)

「夕張再生まちづくり支援への建築専門家の役割」

(2009.7.4) 北海道支部と共催 (参加: 藤倉夕張市長、北海道支部会員、地域まちづくり小委員会など約100名)



パネルディスカッション
藤倉夕張市長の講演



約100名の会員および一般が参加

・2007年度から夕張市を対象に地域研究会を継続している。小委員会では公営住宅の再編による都市のコンパクト化と地域コミュニティの維持について、夕張市に対する提言を行っている。
・それら夕張再生支援の調査研究成果や、他の委員会活動をもとに、シンポジウム「夕張再生まちづくり支援への建築専門家の役割」を北海道支部と共催で行い、会員および一般で約100名が参加した。

支援内容は「夕張市財政再生計画書」に反映された。(3月2日市議会議決。3月9日総務大臣同意)

以下、夕張市財政再生計画書より抜粋

(3)まちづくりの推進及び高齢者・子育て・教育への配慮

・夕張市においては、人口減少と高齢化が急激に進む中で、広大な土地に集落が分散していることから、行政コストが割高で非効率な現状となっている。このため、市中心部への将来的な公共施設の集約により都市機能を充実するとともに住宅再編事業を進めることで、コンパクトで効率的なまちづくりを目指すものとする。

③ 活動内容 2)

大会PD「都市コンパクト化による地域まちづくり」

(2009.8.29) 都市計画専門家を中心に会員約70名が参加



パネリストのプレゼンテーション



<東北大会2009PD>



<大会2009OS>

「地方都市における地域まちづくりのビジョン」

④ 活動の評価と今後の展開

活動評価: 地域支援のためのシンポジウムや大会PDを実施し、出版物を発行するなど、当初の計画を達成した。

今後の展開: 2010年 大会2010(富山)研究協議会を企画

2010年 「木造まちづくり」をテーマに地域研究会を企画

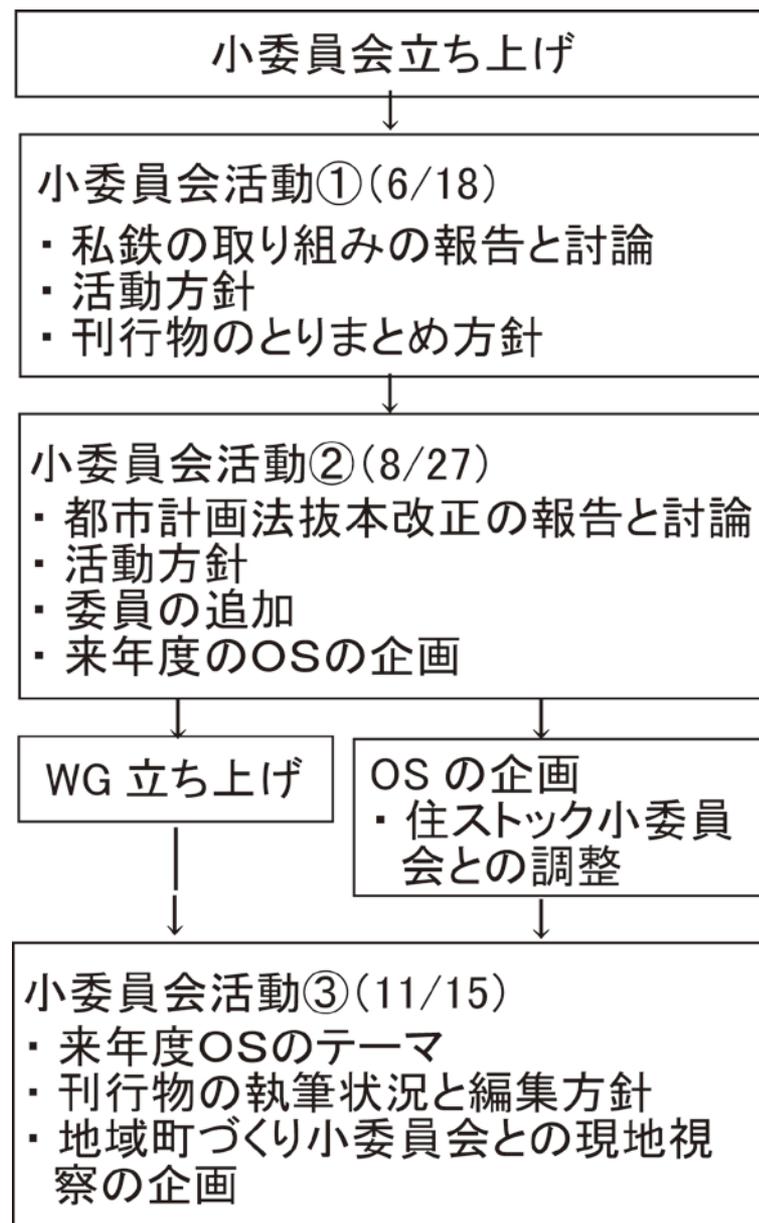
土地利用計画小委員会活動報告

設置目的:

1. わが国および欧米の都市マスタープラン改訂に係る将来都市構造図などの分析を通じて、非成長時代に期待されるアーバンフォームを検討する。
2. 都市計画区域外を含めた地域全域の土地利用管理する手法として、景観法など関連制度の可能性を探る。
3. 集約的土地利用を実現するための手法や事例を収集、分析する。

設置目的1 / 委員会活動の方針

- 小委員会での討議
 - 非成長時代に期待されるアーバンフォームおよび土地利用計画のマネジメントを検討する視点を討議した。
- WGの立ち上げ
 - 地域まちづくり小委員会とWGを設け、議論の場としてHPを立ち上げた。
- OSの企画
 - 住ストック小委員会と共同のOSを企画した。
 - テーマ:「住」の視点から見た都市構造の再編



設置目的2・3／土地利用管理の手法や実践例を収集、委員間で共有及び社会へ発信

● 都市近郊の土地利用管理手法と事例収集

- 昨年度までの委員会活動の成果をとりまとめ、出版の準備をした。

「(仮)人口減少時代における土地利用計画～都市周辺部の持続可能性を探る～」

- そのなかで収集した情報を共有した。
- 都市計画法抜本改正に関する状況の報告を受け、討論した。

● 土地利用の集約化

- 私鉄所属の委員から、公共交通の利用動向および交通結節点での土地利用集約化の取り組みの報告を受け、討論した。

地域との協働(柳川市) 将来像

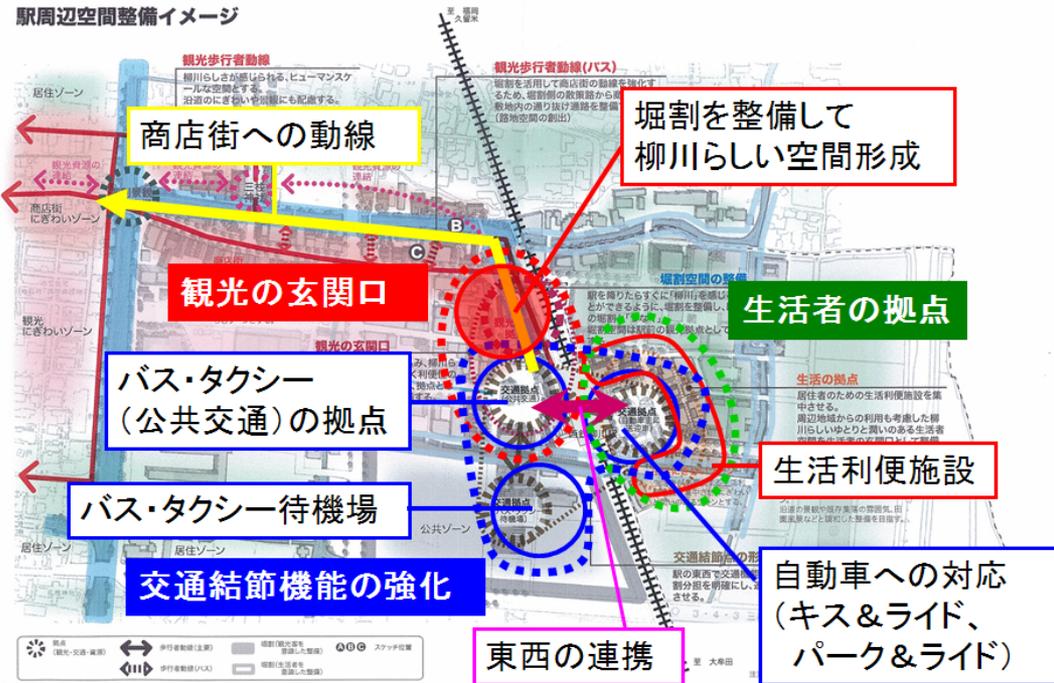


図 私鉄沿線の交通結節点の集約化

地域文脈形成・計画史小委員会

1. 委員会の目的

- ①都市や集落の歴史的事実を「再編集」する作業を通して、そこに継承されている空間性、社会性、計画の精神性、暮らし、記憶などの価値を読み解く。
- ②積み上げられてきた価値の文脈を現代なりの方法で継承し、「進化」させていくためのデザイン論を展開する。
- ③都市計画、建築計画、農村計画、建築・都市史の分野から「新進気鋭」の研究者を委員に選定し、あるいは研究会に招き、「地域文脈」についての新たな研究体系の構築を行う。

2. 研究計画

◇2009年度・2010年度

- ・「連続研究会」における議論と記録を基に、国内外における地域文脈の形成・継承の事例収集とそのしくみの解明、プランナーが果たした役割、生活文化の影響等に関する考察。
- ・「公開研究会」による開港都市の地域文脈形成に関する比較研究（2010年度）。

◇2011年度

- ・1960年代における研究者・プランナーによる計画思想・理念の体系化と構造化、日本と海外との影響関係の解明、1・2年度成果の総括による「近代化」の意味解釈など。
- ・1・2年度の成果を出版し、シンポジウムにより公表。

◇2012年度

- ・3WGの成果の統合による地域文脈継承デザインのモデル構築と成果公表。

3. 設置WG：日本ならびに海外の諸都市・地域を対象とした3つの研究WGを設置

- ①計画理念研究WG：文脈を読み込んだ地域のマネジメントの理念・思想的根拠を整理
- ②地域形成史研究WG：地域文脈の解明・事例収集と「近代化」・「時代移行」の概念の考察
- ③地域マネジメント研究WG：文脈を読み込んだ地域のマネジメントの方法を検証

4. 連続研究会

各委員が蓄積している実績のみならず、各委員があたためている「仮設」を提示しあうことにより、新たな知見や論点に結びつける。そのためセミクロードの研究会とし、成果の公表は出版により行う。次の課題設定と人選を行った（*は委員会外の方でこれから打診する）

- ①社会主義・全体主義から解放された都市・・・岡部明子、阿部大輔、木多道宏
- ②更新と文脈継承・・・高村雅彦、加藤仁美、岡絵理子
- ③計画と形成・・・青井哲人、中島直人、安田孝、田中傑
- ④都市の生態的組織・・・黒田泰介、松山恵、清野隆、黒野弘靖*
- ⑤計画と文脈継承・・・宇杉和夫、中野茂夫、篠沢健太、川島智生
- ⑥継承の担い手・しくみ・・・鶺鴒修、土田寛、椎原晶子
- ⑦開港都市（公開研究会）（主題解説者検討中）

*①は2009年11月30に実施、②は2010年3月3日に実施予定

5. 連続研究会の要約（社会主義・全体主義から解放された都市）

◆欧米と日本の違い：断絶したからこそ、それを取り戻そうとする過去の再評価や「批判の批判が積み重なる」地域文脈もある。これが欧米の特徴だ。一方、「メイド・イン・トーキョー」や「環境ノイズ」に見られるように、日本での地域文脈は穏やかなもので、機能主義的な都市計画も、市場まかせの開発も全て追認するという「重層型」。

◆近代主義批判の行き詰まりと脱却：コンテクスチャリズムやポストモダニズムによる機能主義批判に行き詰まり。アメリカにおけるミクストゾーニングの矛盾（脱機能主義というゾーンをつくだけで終わる）や、歴史的市街地のテーマパーク化。EC都市環境緑書（1990年）で初めて、近代都市計画批判に地球環境問題が「接続された」ことにより「悪循環」から脱却しようとしている。

◆バルセロナ：「一周遅れ」が幸いした。ヨーロッパではスクラップアンドビルド型の再開発がブームであったが、フランコ政権の全体主義化で大規模開発を免れた。現在は、建築家主導による疲弊地区の「公共空間戦略」が功を奏している。

◆プラハ、ブダペスト：都心部に限って言えば社会主義下の大規模再開発は少なく、パサージュや「空隙」は閉鎖化や倉庫化等により無頓着に残されてきたことが空間資源の継承につながる。学校や福祉施設にコンバージョンされ、人にやさしい構造にゆるやかに組織化された時代とも解釈できる。むしろ既成の空間原理を解読しない現代の開発こそ問題。

◆社会主義時代の文脈への回帰：社会主義時代の文脈はソ連崩壊後に抹消されつつあるが、「良き文脈」も確かにあり、旧東側の諸都市で文脈の回帰というべき現象が生じ始めている。



① 委員会の目標

持続可能な社会像を構築するための大学やキャンパスの役割を明らかにする。

- ・地域と大学の連携に対する都市計画的な方向性
- ・キャンパス施設環境の計画とマネジメントを地域との関係も含みつつ戦略的に実行していくための方法論
- ・都市・地域と大学の戦略的連携の次世代的考え方と新たな手法
- ・小委員会活動を外部組織、団体に還元していく社会貢献に関する連携関係の構築

② 委員会の組織 WGなど

(1) **サステイナブル・キャンパスWG** : 持続可能な地域社会を実現するために、大学キャンパスをモデルケースとした「サステイナブルキャンパス」の計画手法の検討。

(2) **都市・地域と大学経営WG** : 大学の抱える資源、課題、計画主体、組織などを活かした、都市・地域のこれからのマネジメントの考え方や計画推進の方策。

(3) **連携支援WG** : 大学と地域との連携協働による都市再生、連携協働組織・機能の具体的事例の調査分析。

③

活動内容

- ・ キャンパス・地域連携小委員会 8回開催
- ・ 情報交流シンポジウム(第13回) 参加者 80名
- ・ パネルディスカッション
「農山村地域と大学の共創まちづくり・むらづくり」
(農村計画・都市計画合同) 参加者 100名
- ・ オーガナイズドセッション
「戦略的地域・大学の連携による地域再生の方向性」
参加者 30名
- ・ 出版企画「(仮称)いまからのキャンパスづくりハンドブック」



情報交流シンポジウム (第13回)

『戦略的キャンパス計画と都市・地域との連携のゆくえ』

日時 2009年8月25日(火) 10:30 - 17:00

主催 日本建築学会都市計画委員会 キャンパス・地域連携小委員会

共催 日本建築学会まちづくり支援建築会議 後援 仙台市 東北大学



④

活動の成果

1. [出版企画](#)を行い、今までの研究成果を踏まえ、今日的なキャンパスづくりに欠かせない視点の抽出をはかり、現代の大学・地域が抱えている課題に応える出版物の発刊を目指す。
2. [「国際会議（International Sustainable Campus Network）」](#)に小委員会有志が参加し、国際的な動向を把握つつ、交流を図った。

⑤

今後の展開

1. 小委員会以外の実践者、研究者、市民等を巻き込んだ、連続 シンポジウムの企画・実施。
2. 都市再生における大学と地域の連携に関する方向性
3. 特にアジアの大学と都市の連携に関する調査・分析

9 環境計画小委員会 (主査:小野尋子)

① 委員会の目標

地域における身近な環境の保全・改善のための都市計画システム(法制度手法、行政システム、コミュニティ・プランナー制度、NPO活動及び支援方策、等)の実態とあり方について、各地域での実践事例の検証と研究を行う。

② 委員会の組織 WGなど

主査：小野尋子（琉球大学）
幹事：田中宏実（藤女子大学）、池田孝之（琉球大学）
委員：安部貞司（日本設計）、安里直美（地域の風景デザイン室）、
大和田清隆（都市防災研究所）、郭 東潤（千葉大学）、
川崎興太（UG都市建築）、清水 肇（琉球大学）、
辻本乃理子（大阪健康福祉短期大学）、本多弘司（東海自治体問題研究所）
水原 渉（滋賀県立大学）、吉村輝彦（日本福祉大学）
陳 湘琴（台湾：虎尾科技大学）、宋 曉晶（中国）

③

活動内容

■2008年度から新たに環境計画小委員会として活動を開始し、研究会の開催、研究活動情報の交換をしながら、特に、地域における身近な環境の保全・改善活動と計画支援制度の事例収集を行い、その一部成果を学会論文として発表した。

■建築学会学術研究発表会大会におけるOSを運営し、発表会において活発な議論が行われOSの目的にあった成果が得られた。

■活動の一環として各地域での環境改善計画の進捗状況の情報収集、小委員会有志による沖縄名護城公園づくりへの参加、公園せせらぎ広場完成後、県公園管理事務所と共に住民・子供による田植え体験イベントの協力・参画を行った。

親子で楽しくまなぶ
みんなの公園!

わら編み体験
自然の材料(わら)で、鍋敷き(ガンシナー)等を実際に編む体験ができます。
■実施日: 5月4日(月)
■時間: 午前11時~12時
■参加費: 無料

昔おもちゃづくり体験
わらやアダンの葉で、手作りおもちゃを作って遊ぶ。(馬、風車、お手玉、手裏剣等)
■実施日: 5月4日(月)
■時間: 午後1時~午後2時
■参加費: 無料

田植え体験
田んぼゾーンで実際に田植え体験を実施します。
■実施日: 5月5日(火)
■時間: 午前11時30分~12時

黒砂糖づくり体験
実際にさとうきびをしぼり、黒砂糖をつくります。
■実施日: 5月4日(月)・5日(火)
■時間:
■参加費: 無料

草木染め体験
自然の染料(桜の木等)でオリジナルのハンカチを染めます。
■実施日: 5月5日(火)
■時間: 午前10時~午前11時
午後1時~午後2時
■材料費: 500円

名護城公園 NANGUSUKU Park
なんぐすくこうえん

ゴールデンウィーク祭
場所: 名護城公園(名護中央公園)せせらぎ広場



④

活動の成果

■小委員会の沖縄チームが中心に参画し、「特定非営利活動団体 沖縄の風景を愛さ(かなさ)する会」を設立し(11月29日)、会員と共に市町村及び市民による風景づくり活動の支援・協力を行った。

■公開講座「緑地・公園による環境デザイン、風景づくり(石川幹子東大教授協力)」を実施した(1月8日)。

Okinawa Fuaikai

NPO沖縄風愛会の目的

私たちNPO法人は、沖縄の風景・景観を愛する心をもとに、沖縄における風景・景観を保全し改善・育成していくための意義と方策を考え、それを推進していくための計画・技術や人づくりについて研修・実践し、広く一般市民のまちづくり活動や自治体の風景・景観づくり事業等への支援を行うことを目的とし、もって沖縄の美しい風景・景観まちづくりや地域経済の活性化に寄与します。

- (1) まちづくりの推進を図る活動
- (2) 環境の保全を図る活動
- (3) 社会教育の推進を図る活動
- (4) 経済活動の活性化を図る活動
- (5) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

お問い合わせはこちらまで
 ブログ: http://blogs.yahoo.co.jp/Fukey_Kanasan
 E-mail: Fukey_Kanasan@yahoo.co.jp
 Tel: 098-895-8901 琉球大学池田孝之研究室



特定非営利活動法人
 沖縄の風景を愛さ(かなさ)する会

NPO沖縄風愛会の活動



風景・景観に関する法律制度、計画・事業の事例収集と蓄積
 : 沖縄の風景・景観に関する計画や事業の事例を情報として収集し、資料集として刊行します。

風景・景観に関する情報の発信
 : 収集した各種情報を最新のニュースと共にホームページ等により公開・発信します。

風景・景観に関する具体的事例の見学会の実施
 : 風景づくりの普及・啓蒙のため、重要な地域を選定し、専門家を交えた見学会を開催します。

風景・景観に関するシンポジウムやフォーラムの開催
 : 風景づくりの意見交換として、一般市民を対象にシンポジウム又はフォーラムを開催します。

地域の風景・景観に関わる人づくり事業
 : 一般市民を対象に風景づくりに関する公開講座や研修会を開催します。

景観行政・計画技術に関するアドバイスや市民会議のコーディネート
 : 風景・景観づくりに取り組む市町村や市民団体等に専門家を派遣しアドバイスします。

風景・景観に関する自主的な調査研究

これまでの活動実績

- 2002 第一回風景デザイン公開研究会・参画
- 2002 第二回風景デザイン公開研究会・参画
- 2002 第三回風景デザイン公開研究会・参画
- 2004 第四回風景デザイン公開研究会・参画
- 2007 浦添市景観まちづくり市民会議・参加
- 2007 美ら島沖縄の風景づくりガイドライン・協力
- 2007 ゴヤ十字路オープンカフェ・協力
- 2008 美ら島沖縄風景づくりシンポジウムin宮古島・参画
- 2008 やんばる風景フォーラム・参画

NPO沖縄風愛会の役員

- | | | | |
|-----|------|------|-------|
| 理事長 | 池田孝之 | 副理事長 | 佐藤 努 |
| 理事 | 安里直美 | 理事 | 仲宗根政勝 |
| 理事 | 宮城敏明 | 理事 | 山城一美 |
| 監事 | 大城幸代 | | |

入会・年会費

- 入会金: 1,000円
- 年会費: 正会員10,000円 学生会員5,000円
- 法人等賛助会員50,000円

振込先: 沖縄銀行我知古支店 普通 1613642
 NPO法人沖縄の風景を愛さ(かなさ)する会 理事長池田孝之



⑤

今後の展開

■各地域における身近な環境の保全・改善活動と計画支援制度の実態把握と検証。見学会、研究会等の実施。

■2010年度大会におけるOS論文の運営を行う。

都市企画小委員会（主査：小林英嗣） 2009年度活動成果報告

1. 委員会の目的

- ・都市計画委員会所属の各小委員会及びWGにおける研究活動の体系化
- ・タスクフォース型WGによる実践及び研究成果の公開
- ・専門実務分野・地域社会との情報交流、研究会等による普及促進

2. 委員会の組織 WGなど

主査＋幹事4名

- － 2009年度都市計画部門研究協議会実行委員会
（実行委員長：小篠隆生）
- － 出版企画WG（主査：上野武）
- － 国際都市デザインWG（主査：出口敦）

3. 活動内容

1) 都市計画委員会所属の各小委員会及びWGにおける横断的研究テーマの推進

- ・ 2009年度都市計画部門研究協議会実行委員会を組織し、横断する複合的な研究テーマ「共創社会における都市計画の実践 ～地域が先導する持続的な都市像に向けて～」を推進した。



「共創社会における都市計画の実践」 参加者:148人

挨拶:小林英嗣(北海道大学)、主旨説明:倉田直道(工学院大学)

キーノートスピーチ:田村明(法政大学名誉教授)

地方から都市計画・まちづくりを考える:高野公男(東北芸術工科大学名誉教授)

協働のまちづくりの視点と課題:山田晴義(宮城大学名誉教授)

ローカルガバナンスの再構築:名和田是彦(法政大学)

論点整理:小篠隆生(北海道大学)

- ・共有するためのプロセスと担い手づくり。
- ・市民に語る言語をつくること、コーディネーターの専門家の育成。
- ・持続的な空間像を構築するため、地域の人々の思いを可視化し、コミュニティビジョンにつなげること。
- ・都市計画の仕組みとして、都市と農村を一体的に捉える必要がある。また、参加の仕組みを制度化していくことが大事。etc...

3. 活動内容(つづき)

2) タスクフォース型WGによる実践及び研究成果の公開

- ・キャンパスマネジメントハンドブックの出版(キャンパス小委員会)の支援を行った。

3) 都市計画委員会の国際化の第一弾として、国際都市デザインWGの支援、地域貢献にも活かす国際教育の推進

- ・唐津市にて、「国際建築・都市デザインワークショップ2010 唐津」、2010年3月14日から23日に開催
15カ国余りの国の学生が参加する予定。

日本建築学会国際建築都市デザインワークショップ唐津2010

「再編集のアーバンデザインー歩きたくなる唐津への再生」

国際的な建築都市デザインの教育プログラムのモデルとして、国内外の学生参加による国際デザインワークショップを実施します。本ワークショップは、公募によって選ばれた国内外の学生が混成チームを組み、国内外の専門家や地域の方々と共に10日間の集中的な英語による作業を通じ、デザイン力と国際力を磨くための実践的国際的プログラムです。

今回の対象地である唐津は、唐津焼などの伝統文化や虹の松原などの美しい自然景観で知られる城下町ですが、近年では中心市街地の空洞化など多くの地方都市と共有の課題も抱えています。そこで、本ワークショップでは、唐津の中心地を対象にして、分散して立地する伝統的な建造物や自然の魅力を活かすためのアーバンデザインの提案を行い、最終日には一般公開の講評会を開催します。

詳しくは、<https://www.ajj-iaud-ws.org> を参照してください。



期 間：2010年3月14日（日）～23日（火）

会 場：佐賀県唐津市（まちなか集い館）

参加学生：国内外の学生 約40名

米国、カナダ、オーストラリア、フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、ポルトガル、ボスニア・ヘルツェゴビナ、チリ、ブラジル、スーダン、中国、韓国、日本ほか

スケジュール：3月14日（日）現地集合

15日（月）オープニングセレモニー、
レクチャー、現地調査ワークショップ（16～22日）

20日（土）中間発表会（会場：まちなか集い館：佐賀県唐津市刀町）

23日（火）公開講評会＋シンポジウム（会場：唐津市民会館）

主 催：（社）日本建築学会 まちづくり支援建築会議／都市計画委員会

共 催：からつ大学交流連携センター、九州大学持続都市建築システムプログラム、
佐賀大学理工学部都市工学科、明治大学理工学部建築学科、
早稲田大学創造理工学部建築学科（アイウエオ順）

後援（予定）：（社）日本建築士事務所協会連合会、（社）日本建築士会連合会、
（社）日本建築家協会、（社）建築業協会、UR都市機構

協 賛：（社）佐賀県建築士事務所協会本部・唐津支部

（社）佐賀建築士会本部・唐津支部

（社）日本建築家協会九州支部佐賀会

連絡先：からつ大学交流連携センター 0955-70-1515